

みんなとともに笑顔いっぱい - 「101」新たなステージへ -



みんなとともに



めっきり寒くなりました。イチョウの木は、実とともに葉も落としています。最近、6年生がボランティアで落ち葉の片づけをしてくれていますが、この活動は最上級生の恒例となっています。また11月の土曜授業日には「持久走大会」が行われますが、子どもたちの次なる目標になっています。このような落ち着いた日々を子どもたちにこのまま過ごさせたいと切に願っています。



「学生ボランティア」の受け入れを再開しています。

本校では、「学生ボランティア」を積極的に受け入れています。この制度の活用は、本校が独自に行っているわけではなく、福島市教育委員会と福島大学との間で協定が結ばれた上で受け入れているものです。

このコロナ禍で受け入れが止まっていましたが、再開する旨の通知がありましたので、福島大学の担当者と連携を取り、徐々に人数を増やしてきました。現在の状況は、次のとおりです。

【「学生ボランティア」の受け入れ状況】

曜日	学生ボランティア		活動時間	活動内容		
				自主学習等の確認	授業補助	いまここ学習室
月曜日	Aさん	男子学生	終日	○	○	○
火曜日	Bさん	女子学生	終日	○	○	○
	Aさん	男子学生	午前	○	○	・
水曜日	なし			・	・	
木曜日	Cさん	男子学生	午前	○	○	・
金曜日	Dさん	女子学生	午後2時まで	○	○	・

※ 「学生ボランティア」は日々の体調管理をした上で活動をしている。なお、感染状況によっては、受け入れを中止する場合もあり得る。

〈本校にとってのメリット〉

○ 「いまここ学習室」での指導を主眼に受け入れたが、「授業補助」や「自主学習等の確認」等担任の補助を担ってもらうことにより、担任が「子どもたちと向き合う時間」の確保につながっている。また、子どもたちにとっても、お兄さん、お姉さんの存在が身近にいることは、心ウキウキすることだろう。

〈学生にとってのメリット〉

○ 教員になる前に学校現場を知ることは、大きな経験値になる。また、本校での活動は「単位」として大学から認定される。4年生には「卒業論文」作成のための協力も行っている。

【校長のつぶやき】 その51 「交通事故の絶無を！」

悲しい話である。T君は、私が初めて担任をした子どもの一人である。3年、4年と担任をして一旦離れた後、卒業時の6年で再度担任をした。彼は、勉強も運動も得意で、ともにトップクラスであった。特設サッカー部では、センターフォワードを担っていた。しかし、中学1年生で、帰らぬ人となってしまった。

それは、交通事故である。部活終わりの下校時、その日たまたま自転車のライトが切れていた彼は、後ろを走る友だちの自転車のライトに照らされ、家へと向かっていた。しかし、何かの拍子に互いのタイヤが接触し、彼はバランスをくずした。運のわるいことに、自動車がすぐ近くまで来ていた。即死である。親切心で後ろを走っていた子どもも、私の教え子である。

この話には続きがある。その自動車を運転していたのは、実は私とも面識のある小学校教師のH先生であった。私はそれから数年、命日には自宅を訪ねて線香をあげていたのだが、家に入るとH先生が必ず先客としてそこにいた。その日たまたまその場を通りかかってしまったH先生は、今も懺悔の日々を過ごしているのだろうか。

交通事故は、被害者も加害者も不幸にする。「事故に気を付けて」「横断歩道では一旦止まって」「青信号になってもよく見て」など、後悔をしないためにも、子どもたちへの日々の声かけをしていきたい。そして、自らも十分に注意をして運転をしたい。まもなく彼の命日がくる。供養として、この話を載せてみた。